

弘前大学等との協働により「在来トウガラシ」をブランド化

< 青森県 >

市町村・集落の名称	弘前市
協働の相手（企業や大学等）の名称	弘前大学 青森県特産品センター 他
仲介者・コーディネーターの名称	弘前大学農学生命科学部 嵯峨紘一氏（前弘前大学教授・現研究会顧問）
協働のポイント	存続が危ぶまれていた「弘前在来トウガラシ」を「清水森ナンバ®」として復活させるため、生産者・加工・販売・行政・大学などの地元関係者で構成する「在来津軽清水森ナンバブランド確立研究会」を発足させた。
協働のきっかけ・経緯	地域で古くから栽培されていた「弘前在来トウガラシ」を研究していた嵯峨紘一氏の講演をきっかけに、地元伝統の味を守ろうとする気運が高まった。
取組の具体的な内容	遺伝的特性を維持するための種子管理、栽培技術の確立・普及や加工品の開発による特産品づくり。
農村地域への効果	生産者・栽培面積が増加し、新たな特産物となったことによる所得向上
都市部の主体（企業や大学等）への効果	・加工品の開発・販売 ・地産地消
仲介者等の役割	嵯峨氏は、清水森ナンバ（弘前在来トウガラシ）のもつ機能性を生かした商品開発に関わる食品企業ニーズを把握し、食品産業と農業者をつなぐ監修・コーディネーター
今後の課題	・栽培指導の徹底による良品の生産量増加 ・加工品の研究開発の継続と加工施設の確保・充実
関連事業（国・都道府県等）	食料産業クラスター「モデル地区」、立ち上がる農山漁村、農商工連携88選（農林水産省）